

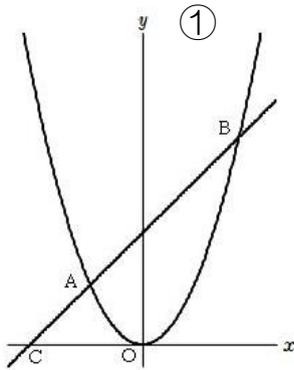


布施だより

《「熟考・説明してみましよう」 ~ 毎日の学習・追究から ~ 》

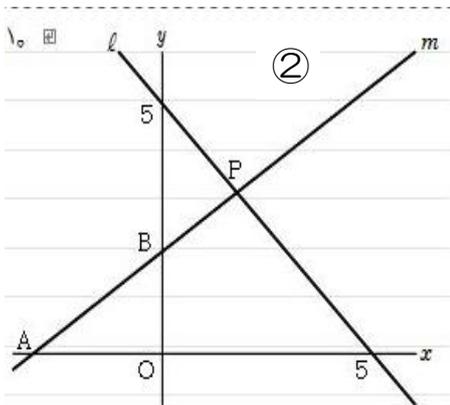
数学科の授業から考えさせられたふたつの追究の場面をご紹介します。

16日(水)の3年生、数学科の「二次関数」の授業です。学習問題は図①より、直線の式と座標、そこから生まれる三角形の面積を順次求めていく課題です。この追究に取りかかる前段として図②より(既習事項である一次関数の復習による学習の振り返りと共に、新しい概念である二次関数の挑戦への伏線にもなります。)やはり座標や直線の式、そして囲まれた三角形の面積を求める追究が用意されます。曲線の追究に入る基盤として、2直線における同様の問題で伏線が敷かれたのです。



標、そこから生まれる三角形の面積を順次求めていく課題です。この追究に取りかかる前段として図②より(既習事項である一次関数の復習による学習の振り返りと共に、新しい概念である二次関数の挑戦への伏線にもなります。)やはり座標や直線の式、そして囲まれた三角形の面積を求める追究が用意されます。曲線の追究に入る基盤として、2直線における同様の問題で伏線が敷かれたのです。

目の前の女子生徒の追究です。②に関して16分間の個人追究でも、先生が解法を伝えている間



も、その女子生徒は全くワークシートに何も書き入れません。ずっと考え続けています。全体の追究が①に入って、ようやく黒板に示された②の解法をシートに書き写していきます。つまり①にはこの時間、進んでいません。このような理解と定着の進度が様々になる場面はどの教科においてもあります。このことを解決する追究形態としてペア学習があることは

は言うまでもありません。現に、彼女は後ろを向いて、仲間に尋ねます。①ではなくて、②について。後ろの仲間は根気強く伝えます。彼女も何度も聞き返します。でも納得できません。納得がつかないまま、終末を迎えます。授業を終えても尚、その女子生徒は決してあきらめず、ずっと考え続け、ずっと追究し続けようと自分のノートを見続けています。「熟考」し続けているのです。



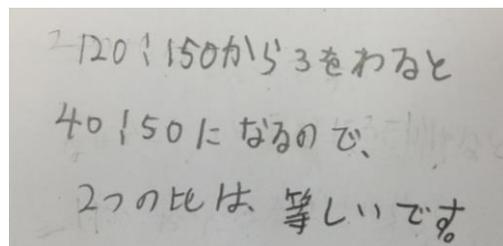
続いては24日（木）1年数学授業、単元は「比と比例式」です。

小学校6年時の単元「比」から振り返りの追究に入ります。「40 : 50 と 120 : 150 の2つの比は等しくなります。どのような理由で2つの比は等しいと説明できますか？小学校の学習を思い出しながら、いろいろな方法で説明してみましよう。」

先生は生徒とのやり取りから「比の右側の数字が基準」になること、そして「比の値」という概念を記憶の中から引っ張り出し、据えいきます。その間、先生は「どうしてそうなる？」「どうやってやった？」「違う方法ある？」「他には？」と、多様な考え方を求めます。そして時折「みんな伝わった？」



と全体に返します。「うん、伝わった！」の返答の多寡により、追究の定着度を測ることができます。そして先生からはこの課題に対する、最も正しい答え方（「～だから、～なので、等しくなる。」・理由が問われていることに対する解答の文末の記述の正確さ）が授けられます。



そうした上でこの時間の追究に入ります。基本→発展→超発展と負荷のあるジャンプ課題が用意され、おまけに家庭学習のお土産までもあって（生徒からは少なからずの笑顔(^▽^)のブーイングが聞こえてはいましたが。）授業が終末を迎えていきます。

・・・小学校時代のあるいは直前に学習したことへの段階を踏んだ着実な振り返りが新たな追究に深く関わっていくことの重要性について、最も正しい答え方（真理）の追究と定着の仕方について、若い人たちの決して諦めることのない飽くなき探究心について、・・・等々、たくさん考えさせられる有意義なひと時でした。

《 収穫の秋です！ 》

<野球部> 第10回「けんせつ杯」

9月27日

優勝



《 ノリノリです！ 50年のキセキ ～678人の心あったかいんだから～ 》

第50回銀河祭にむけて「全校ダンス」の追究が、忙しい昼食後の時間を使って西体育館で行われています。実際の全校ダンスに入る前には、事前の準備にお昼の放送を活用して「ダンスビデオ」を流し、生徒の皆さんへダンスの仕方を伝えてくれました。

でも全校練習の初日、ステージに立つ3人のリーダー諸君がダンスの手順を説明してくれていても、踊ることに恥ずかしさが先だってしまった生徒諸君は、その説明に耳を傾けることなく、自分勝手に残念で何ともお粗末な時間を過ごしていました。

けれど、そのことを痛切に感じた3年生諸君は次のダンス練習の時間からは、1年生から3年生までの全てのクラスの前に立ち、そのクラスの動きのぎこちなさにそっと寄り添い、自分自身ができる精一杯のパフォーマンスを示してくれ、ダンスの範を伝えてくれました。

そして、そんな地道な追究を重ねてきてくれた28日（月）の昼休み、体育館に足を運ぶと、そこには各クラスの先頭に立つリーダー諸君と一体になって、ダンスを楽しむ若鮎のように弾けようとする生徒諸君がいました。踊りながらピースサインを送ってくる仲間たち、揃えた手拍子に熱さを込めようとしている仲間たち、何よりもその場を共有し一緒に楽しもうとしている仲間たち・・・ノリノリです。

けれども、こんな嬉しい成長はこれまでの生徒諸君の毎日の生活を振り返ってみれば、至極当然のこのように感じられます。「凡事徹底」を合い言葉に、毎日の日々の当たり前の生活の中にこそ「本当の力」が存在することを確信している生徒諸君だから、この変化は当たり前のものだったと思えます。

誇りであり、大切に想っているクラスと学年のために、音楽会に向けて追究を積み重ねてきている合唱があり、その成長と変化をじっと見つめ続け、応援し続けている先生方の後ろ姿があり、それに真っ直ぐに応えようとしてくれる仲間達があります。

そんな全校の合唱のステージに華を添えてくれる「美術部諸君のステージバック」は昨年の制作から、今年の新制作のリニューアルへと夏休みからの準備を経て、開祭式でのオープ



ニングを待つばかりです。ステージに貼り付けるため、ステージを汚したり傷つけたりしないよう脚立の汚れをきちんと雑巾で拭き取ってくれる美術部の諸君がいます。

清掃中、緑化委員会の諸君が大切に面倒を見、育ててくれているマリーゴールドのプランター近くのタイルの汚れを一人になって一心に拭き取る生徒諸君がいます。・・・



(閑話休題です。)

2学期に入り、幾人かの転入生の新しい仲間を西中では迎え入れています。そんな転入生を迎え入れたあるクラスの学級通信です。

～5連休明けの9月24日、朝学活で転入生の仲間を皆さんに紹介したとき、皆さんがとても嬉しそうな表情で迎えてくれてとても嬉しかったです。新しい環境での生活は不安や緊張などさまざまな思いがあったことと思います。でも皆さんからの笑顔と拍手が、その不安と緊張を和らげてくれました。皆さんから寄せられた生活ノートを紹介します。

○転入生の仲間が来ました。優しそうでした。クラスの仲間が増えて良かったです。これからも仲良くしていきたいです。

○新しい仲間ができました。うまく話せるか心配でしたが、意外に気さくに話しかけてくれて、初日とは思えないほど話せました。私たちが4月に入学してきた頃の気持ちを思い起こして、これからも話していきたいです。

笑顔と拍手で新しい仲間を迎える。これぞ篠西中生徒諸君の心意気です！
そしてこの優しい心意気と熱い気迫で、第50回銀河祭がスタートします！

